



翠巒 Mini Press 第179号 2023/4/10

編集・発行 高崎高校新聞部



新1年生が語る

高校生活への期待



希望に満ちた表情で合格発表を訪れる新入生

2月21日に前期選抜の合格発表が、3月16日に後期選抜の合格発表がそれぞれ高崎高校で行なわれた。安堵や喜びの表情を浮かべる新入生が多く見受けられた。

そこで、今回は、新入生たち合格後の心境や今後の展望などを取材した。全体としては、翠巒祭や定期戦などの行事が楽しみだと答えた生徒が多く、高校生活への期待が感じられた。新入生には、様々な行事を楽しみながらも文武両道を実現し、充実した高校生活を送ってもらいたい。

〈質問内容〉

- ① 合格した気持ちとは。
- ② 入りたい部活動は。
- ③ 高校生活で楽しみなことは。
- ④ 高校生活で頑張りたいことは。
- ⑤ 高校卒業後の進路は。

入沢結太くん(豊岡)

① 合格に対し、喜びと驚きを感じている。

② ラグビー部に入部しようと考えている。

③ 翠巒祭を楽しみにしている。

④ 男子校で女子がいなかったため彼女ができるように頑張りたい。

⑤ 詳しくは決めていないが、GMARCH以上のレベルの高い大学に進学したい。

飯野空くん(豊岡)

① 発表前から合格を確信していた。

② 中学からしていた吹奏楽を続けたい。

③ 翠巒祭が楽しみだ。

④ 男子校に入学することになるが、女子とも多く交流していきたい。

⑤ 京都大学の理系学部に進学したい。

梅津壮良くん(藤岡)

① 安堵の気持ちが一番大きい。

② 陸上部に入るつもりだ。

③ 部活動を最も楽しみにしている。

④ 勉強を頑張りたい。

⑤ 国公立大学の理系学部を目指している。

角田文武くん(群馬中央)

新聞部員募集

新聞部は、3年生6人、2年生4人の計10人で、顧問の北爪先生、副顧問の大隅先生、菊地先生のもと、活動しています。新聞部は、高松伝統の部活動であり、今年の



取材を行なう新聞部員

1月にはブランケット第300号を発行しました。他にも、昨年の県の高校新聞コンクールで第2席の県議会賞を受賞しています。基本的に平日の放課後に活動しています。自分の興味・関心のある人や事柄を取材することも可能です。過去には、『ソードアート・オンライン』の作者の川原礫さんや、元総理大臣の孫である中曽根康隆さんに取材を行ないました。時には取材で県外に赴くこともあります。誰でも大歓迎です！是非入部してください！ (大手)

新聞部年間スケジュール

- 4月 ミニプレス発行
- 6月 翠巒祭号発行
- 8月 オープンスクールミニ発行
- 9月 ブランケット発行
- 10月(11月) ミニプレス発行
- 12月(1月) ミニプレス発行
- 3月 ブランケット発行

※定期戦後は定期戦号も発行

- ① 試験にコンパスを忘れたため、合格を知ったときは驚いた。
- ② 学校説明会の時にエールをもらった応援部に入部したい。
- ③ 男子校でしか味わえないような雰囲気を楽しみにしている。
- ④ 勉強を頑張りたい。
- ⑤ 教師になりたいため、教育学部に進学したい。

荒勇毅くん(入野)

① やっとスタート地点に立てたというような感じだ。

② サッカー部に入りたい。

③ 定期戦を楽しみにしている。

④ 勉強と部活を両立していきたい。

⑤ 医学部を目指している。

武井咲太郎くん(松井田)

① 安心していているのと同時に嬉しさも感じている。

② バスケ部トボール部か陸上部で悩んでいる。

③ 授業や勉強を楽しみにしている。

④ 勉強と部活を両立できるようにしたい。

⑤ 医学部に進学したい。(新井)

NOTE

新入生のみなさん、入学おめでとう。私自身のことを振り返ってみると、1年前、急に大人の世界に飛び込んだかのごとく、毎日が驚きに満ち溢れていた。本当に男子しかない学校。時代とマッチしていない金色の校章輝くスリッパ。想像とは違う高松生活のスタートであった▼皆違う中学校のTシャツを着て登る鍋割山登山では親睦を深め、クラスのお揃いのTシャツへと変わり、全員で一丸となって臨んだ翠巒祭。頼りになる先輩方から、皆で一つのものを作り上げることに楽しさを学んだ。今年で77回を迎える前高との定期戦では、日々の練習を通じて立派な山猿(前高生が高松生を揶揄するときに使う言葉。ちなみに高松生は前高生を白豚と呼ぶ)になることができた。今年も新入生の皆にも、山猿として一緒に白豚を撃滅してほしい。他にも、高松での生活は、さまざまな行事の連続だった▼「人は一生懸命な姿が一番美しい」。これは、ドラマ3年B組金八先生の主人公、坂本金八の言葉だ。高松生は、行事、テスト、行事、テストの無限ループの中で、常に何かに追われて生活している。時に心が折れてしまいうるようになることがあるかもしれない。しかし、大切なものは結果ではなく、何があっても腐らずに全力で努力する姿勢である。本校の自由な校風の下、種々のことに挑戦し、自分だけのカラーを出してほしい。(小松)
